



「一期一会」について思う

「一期一会(いちごいちえ)」と読み、「一生に一度の機会。生涯に一度限りであること」という意味です。何度も会う機会がある人に対しても、常に「これが最後かもしれない」と考え、そのときを大切にすべき、出会いを大切にすることのたとえとして使います。

「好きな言葉はなんですか？」とか「色紙に何かひとこと書いてください。」と頼まれても今まで、「一期一会(いちごいちえ)」という言葉を選んだことは正直ありませんでした。自分の中に「毎日、そんな風に考えながら生きるのってしんどいなあ」「こんな覚悟を決めて毎日生きなくても、それなりに人生はうまくいく」という思いがあって、あまり好まない言葉でした。

しかし、今回の臨時休業の決定を受けて、突然、子供たちとの日常を奪われて、子供たちと過ごす時間がいかに宝物であるかを改めて知らされました。あまりに急なことでとてもショックで「もっとこんなことをしてあげたら良かった」と後悔の念が次から次へと押し寄せてきます。

学校を預かる責任者として、ひとりの人間として今回ほど自分の甘さを思い知らされ、「一期一会」という言葉に向き合っています。

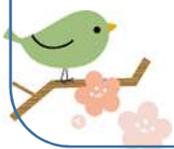
子供たちの命や未来が奪われたわけではありませんが、それでも、胸に沸き起こってくるこの大きな喪失感を言葉にすることは難しく、しばらくためられました。しかし、先生たちと一致団結してこれからの考えながら少しずつ自分の思いを言葉にできるようになりました。学校はチームとして今回のことを肅々と受けとめ、今できることを精一杯考えています。保護者の皆様にはいつも学校を温かく支えて頂き感謝の気持ちでいっぱいです。行き届かないことも多々あると思いますが、子供たちの笑顔のために一緒に進んで行けますようお願い致します。

(学校長 道本 美月)

二月にはやはり逃げられて・・・

今年度は本校の取組を外部へ発表させて頂く機会を多くいただきました。2月には2回違う会で、宮北小学校のことを紹介させて頂きました。子供たちの素敵さが伝わるように頑張りました。

そうこうしているうちに、2月はあっという間に終わってしまい、頭の片隅に「学校だより2月号」を置きながらも出す機を逃してしまいました。臨時休業号として、短くても何回かお便りがで切ればと思っています。



子供たち どう過ごしていますか？



さて、報道では毎日、一斉休業になった子供たちの過ごし方を取り上げていますので保護者の皆様もご覧になっていることと思います。教育用教材の配信もよく目にします。

本日、担任からお渡した自主学習のための「カルテック」は和歌山市教育委員会が提携している教材で、中学校まで使えます。また、2年生から受験している「漢字博士検定」は和歌山県教育委員会が提供してくれています。HPでも紹介しておきますので、ご活用ください。読売新聞で3月4日から著名人による「一斉休校 どう過ごす？」というコラムがリレー形式で連載されています。私たち大人の関わり方について参考になります。簡単に要約して紹介しておきます。全部ではなく、これならできると思うことだけ参考にしてください。

教育評論家 尾木直樹さん

「子供たちは今、安定した日常が突然途切れ、多くは自宅ですごしている。最初は喜ぶかもしれないが、徐々にストレスがたまり不安定になる可能性がある。精神的なケアが重要である。」

- ① 子供の不安定な気持ちをしっかり受けとめて、子供の話をよく聞き、共感してあげること。
- ② 家事などの役割を与え「助かるわ」とほめる。このピンチを家族の絆を深める絶好の機会として限られた時間でも、一緒に笑顔で過ごす。
- ③ 自分の一日を可視化して客観的に振り返る。(たとえば、日記) 起床時間を変えずに生活のリズムを保つ。
- ④ ゲームやスマホに依存しないように充電は3日に1回など、子供が自ら利用時間を管理できるようにする。親が押しつけず、子供と一緒に考え、主体性を尊重する。

赤堀料理学園校長 赤堀博美さん

「食育の良い機会ととらえて 無理せずできることを」

- ① 給食のように栄養バランスが優れた同程度の食事を家庭で作ることは簡単ではないが、栄養バランスは普段以上に考えて欲しい。
- ② 子供だけで日中を過ごす場合は昼食の作り置きが理想だが、コンビニやスーパーの弁当も優れたものがあるので活用する。
- ③ 子供だけで昼食を食べる場合は、昼食の時間を合わせて会社から電話するという工夫もできる。
- ④ 朝、夕は出来るだけ家族で決まった時間に食事を取れば生活のリズムも整う。
年齢にもよるが、週末は簡単な子供でもできるレシピを一緒に作って子供がひとりで昼食をつくれるようにするのもいい。

